

三瀬一周すごろく

2013年6月20日号に掲載した、山形県鶴岡市三瀬地区の続報です (<http://sanze.jp/>)。1,500人が住む三瀬。このところ活発な活動が行われています。Fish-1 グランプリ優勝(坂本屋旅館)、お取り寄せラーメン日本一(琴平荘)、八森山スキー場でのワラビ栽培、夜光虫ツアー、三瀬の薪研究会等々。

思い思いの取組を「三瀬里山報告会」で報告し、お互いの活力源にされているようです。筆者もたまたま、報告会に参加させていただいています(よそ者・馬鹿者役だと思っています)。

今回、取組のひとつ、三瀬すごろくを見せていただきました。若者を地域に残すためには、子どもの頃から地域の良さを学ばせる必要がある。そう考えた若手の石塚一晶さんが尽力されました。地域の地図にすごろくを入れ込み、1コマごとに地域のことが書かれています。たとえば「[[きらきらの海] 7月～9月のよる、三瀬海岸で神秘的な夜光虫の光を体験しよう!」。「[[A コープ] ポイント2倍? 次はサイコロを振って出た数の2倍すすむ!」。「[[海遊びの注意] 高い波、速い流れ、危険な生き物にも十分気を付けて楽しもう!」。「[[スナックうろこ] 月曜日は定休日、午後7時過ぎ、おとなはここで1回休み」といった具合です。コマの中には、三瀬

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▶みんなで学ぶ! 楽しむ! 三瀬一周すごろく

の良さや、地域の商店や役所のことも書かれています。地域の社会学習にもなりそうです(印刷代を協賛していただくことも)。以前に手造り版を見ていましたが、改めて印刷されると、なかなかの出来映えです。

すごろくの起こりは庶民が数を覚えるようになった室町時代だそうです。遊びながら計算を練習する学習玩具として、ナンコ(薩摩拳)やすごろくが普及したとのこと。それからすれば、地元のことを楽しく学ぶ道具として、誰でも遊べるすごろくに着眼されたのは秀逸だと思います。実際に保育園で地域の方々のすごろく大会が開催され、NHKの取材も入って、盛り上がったと聞いています。

であれば、「地域すごろく」や「わが社すごろく」を作ることも可能だと思います。わが社の素晴らしさをチームですごろくに作り上げる。「わが社の宝すごろく」「事業すごろく」「安全すごろく」。妄想がふくらみます。

(MBO実践支援センター代表)